大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院との交流事業報告

小　林　　亘（国立登山研修所　専門調査委員）

１　はじめに

2016年９月に実施した大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院との交流事業について報告する。

この事業は，2010年に締結した独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所と大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院（旧山岳安全教育センター）との協約書に基づき，山岳事故防止と安全登山の普及のための情報提供等を行うとともに，交流活動を通して相互理解を深め，健全な登山の発展に寄与するという趣旨のもとに行われた。

今回は、登山研修所が９月に「山岳遭難救助研修会」の担当講師を対象として開催した「講師研修会（救助技術Ⅰ）」のプログラムに訪問団６名を招聘した。

２　主　催

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院

３　概　要

（１）場　所　独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

（２）期　間　2016年９月27日（火）～10月２日（日）

（３）招聘者

氏　　名	所　　属	役　職　等
朴容煥（パク ヨンファン）	国立公園登山学校	校長
金基昌（キム ギチャン）	国立公園管理公園安全防災所	係長
兪尙氾（ユ サンボム）	国立公園登山学校	主任
李廷渉（イ ジョンスブ）	多島海海上国立公園	主任：通訳
鄭俊敎（チョン ジュンギョ）	雪岳山国立公園	安全講師
洪思賢（ホン サギョ）	北漢山国立公園道峰事務所	安全講師

（４）通　訳

氏　　名	所　　属	役　職　等
宋　勇（ソン ヨン）	高志山の会	事務局

（5）参加講師

担　　当	氏　　名	所　　属
統括リーダー	長　岡　健　一	モンテ・アルパインクラブ
統括サブリーダー 訪問団アテンド	小　林　　亘	春日井山岳会
実技・協議	新　井　健　二	クライミングメイトクラブ
実技・協議	上　田　幸　雄	チーム・ブランカ
実技・協議	加　藤　直　之	日本バックカントリースキーガイド協会
実技・協議	笹　倉　隆　昭	日本プロガイド協会
実技・協議	島　田　和　昭	日本プロガイド協会
実技・協議	杉　坂　　勉	ＪＡＧＵ
実技・協議	増　本　　亮	同人クライミングファイト
実技・協議	大　森　　亘	岐阜県警察山岳警備隊
実技・協議	松　井　貴　充	富山県警察山岳警備隊
実技・協議	三　井　康　志	長野県警察山岳遭難救助隊
県警察山岳警備隊	本　庄　賢　司	長野県警察山岳遭難救助隊

（6）日　程

9月27日（火）仁川国際空港→富山空港→富山県警察山岳警備隊本部（視察）
→富山県立山カルデラ砂防博物館（視察）→登山研修所

9月28日（水）講師研修会参加（「要救助者の梱包要領」に関する実技、協議）

9月29日（木）講師研修会参加（「支点構築とその強度」に関する実技、協議）

9月30日（金）講師研修会参加（「救助システム等の検証」に関する実技、協議）

10月１日（土）登山研修所→室堂→一ノ越～浄土山（登山）→歓迎レセプション（富山市内）

10月２日（日）富山空港→仁川国際空港

4　活動の概要

平成22年10月に協約を締結し、翌平成23年から始まった大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院との交流事業は今回で６回目を迎えた。今回の招聘は10月に開催する「山岳遭難救助研修会」の担当講師を対象にした講師研修会（救助技術Ⅰ）への参加であった。研修会参加に先立ち、富山県警察山岳警備隊本部や富山県立山カルデラ砂防博物館などの視察も行った。

登山研修所内および周辺の山岳地形を利用しての研修に朴容煥（パク　ヨンファン）国立公園登山学校校長以下６名の訪問団が一つの班として加わり、ほぼ同じ内容の研究協議や救助の実技研修を行った。

研修は、机上での協議と実技研修を交互に行った。事前の協議で訓練の内容や目的について全員で共通認識を持ってから実技に入り、実技後の協議では検証結果や成果について共通認識をはかるスタイルで進められた。

室内での研修は、応急的にツエルトやスリング、カラビナ等を利用した要救助者の梱包要領について

講義室で実際に装備を使いながら意見交換を行った。これは主に雪上の搬送を意識したものであった。韓国班からは、ロープを利用した担架の製作が紹介された。いわゆるロープバスケットのスタイルであったが、今までに研修所で紹介されたことのない形のもので、眼に新しかった。このほか、支点の構築方法やその強度についても室内で協議を行った。

実技研修は主に屋外人工岩場と周辺の林間で行った。大木へロープを使ってアンカーをとる場合のポイントについてくわしく検証を行った。第一に強固、確実で多人数での作業中にも間違いが起きにくい方法や、大きな荷重のあとでも容易に撤収できる方法など、多岐にわたって検証を行った。ススキ、笹、ブッシュ等、細い植物を複数本利用する支点の作り方については、常に荷重方向を充分意識し、できるだけ茎を破損させない束ね方やスリングのかけ方を詳細に検証した。

ロープレスキューのシステムについては、おもに索道の設置を題材に進められた。システムの多重性をどのように解釈し、現実にどのようにバックアップをとるか等、大局的な問題に始まり、木八（きはち）（索道を押し上げて地面とのクリアランスを得るための支柱）の作製、設置要領、システム内の場所ごとに変わる使用すべきカラビナの種類の選択等、細かな事柄まで検証を行った。いずれも長岡統括リーダーの現場経験から学ぶところが大きかった。言葉での表現が難しく、実践の中でしか知ることのできない要領や落とし穴もあり、今後も付け焼き刃の知識で終わらせることのないよう、真剣な実践的訓練を行う必要がある事も確認された。

韓国班は登山研修所講師とともに混成班として訓練や意見交換を行い、また時には韓国班単独でデモンストレーションを行うなど、積極的に参加し、相互に知識と技術の研鑽を図った。

進行状況について普段の講師研修会と大きく違うことは宋氏に交互に通訳をしてもらいながらの進行となったことであった。どうしても意見交換に時間がかるため、もどかしさも感じられたが、ほぼ見学に終始した過去５回の訪問時とちがって、文字通り研修に参加して、一緒に訓練したという印象であった。また、宋氏の熱心で的確な通訳のおかげで、ほぼ腑に落ちる意見交換となったことはありがたいことであった。

研修会最後の夕食は、韓国班も研修会の単なる見学に終わらず、一緒になって訓練を行った事も手伝い、参加者各々がスマートホンの翻訳アプリまで駆使して語り合う熱い懇親会となった。

帰国前日には、交流事業の一環として、登山研から星野、滝川の両専門職と講師からは小林の３名の案内で立山登山を行った。この日は雨、霧という生憎の空模様であった。決定は一之越まで保留し、数十分待機して空模様を窺ったが気象好転の兆しはなく、当初予定していた雄山往復の登山をあきらめ、浄土山頂上を目指すことにした。韓国にはない3000m超の雄山に登頂ができず、訪問団も我々も残念であった。しかしながら、せめてもの救いは室堂まで下山した後に雲の晴れ間から秋色に変わり始めた室堂平から山崎カールの景色を見ることができたことであった。

下山後の夜は、富山県山岳連盟、富山県警察などから関係各位の参加で「歓迎レセプション」を開催し、相互理解を深めるための有意義な場となった。これまでの日韓交流事業の実施により、両国それぞれの登山事情や登山情報、技術、知識等をお互いが徐々に共有し、理解してきている。両国の安全登山の普及、発展と言う面でも成果を上げてきていると思われる。今後も事業の充実を図り、日韓両国の一層の相互理解と協力を図っていくことの必要性を確認した。

集合写真

研修風景

立山登山　室堂平にて

付録
交流事業の経緯
　韓国では登山の流行とともに遭難事故が多発し、行政・大韓民国国立公園公団が対策を講じるため2010年２月にソウル郊外に山岳安全教育センターをを設置した。韓国登山界では国立登山研修所の存在が知られており、登山や遭難対策について学びたいとの申し入れがあり、日本の国際化推進の気運と相まって交流事業が実現した。

交流事業の記録
平成２２年１０月２７日（木）
大韓民国国立公園管理公団山岳教育センター（当時）との事業協力に関する協約書の締結
場　所：国立登山研修所
参加者：李秀亨（山岳安全教育センター長）
　　李龍民（災難管理チーム長）
　　朴淇衍（公園施設チーム長）
　　韓　赫（山岳安全管理センター）
　　金　勲（鶏龍山国立公園：通訳）

平成２３年１０月２８日（金）～１１月１日（火）
大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院（2011年改名）答礼
場　所：大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院
参加者：日本スポーツ振興センター理事　　堀部定男
　　国立登山研修所長　　渡邉雄二
　　国立登山研修所専門職　　高嶋和彦　　以上３名が訪韓

平成２３年１１月１１日（金）～１１月１５日（火）
大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院招聘
安全登山普及指導者中央研修会に参加・視察
場　所：国立登山研修所
参加者：団長　金鍾湜（国立公園管理公団登山学校長）
　　朴容煥（国立公園管理公団登山講師）
　　崔秀源（国立公園管理公団災難安全部安全教育係）
　　金在浩（国立公園管理公団登山講師）

通　訳：　　ノ　ジョンテ（富山大学大学院）

平成２４年９月２５日（火）～９月２８日（金）
大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院招聘
「講師研修会（救助技術）」に参加・視察
場　所：国立登山研修所
参加者：団長　李載遠（国立公園管理公団災難安全部長）
　　朴暳燮（国立公園登山学校講師）
　　許庸弼（国立公園登山学校講師）
　　崔大正（山林航空本部航空救助隊）

通　訳：　　宋　勇（高志山の会）

平成２５年９月８日（日）～９月１３日（金）
大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院訪問
安全管理担当職員救助力量強化教育研修会を視察
場　所：大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院
参加者：団長　渡邉雄二（国立登山研修所所長）
　　北村憲彦（専門調査委員・主任講師）
　　小林　亘（専門調査委員・主任講師）
　　山田智敏（研修会講師・富山県警察山岳警備隊）
　　東　秀訓（国立登山研修所専門職）
　　以上５名の交流団が訪韓

平成２６年５月１３日（火）～１８日（日）
大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院より
講師研修会（春山）のプログラムに訪問団６名を招聘
夏山前進基地を拠点に研修を行い、剱岳へも登頂した
場　所：国立登山研修所
参加者：団長　金哲洙（国立公園管理公生態探訪研修院長）
　　金　勲（俗離山事務所：通訳）
　　孫京完（雪岳山事務所）
　　禹鐘碩（北漢山事務所）
　　高濟仁（北漢山道峰事務所）
　　金南律（国立公園登山学校）

通　訳：　　村越　稔（日本山岳会東海支部）

平成２７年５月１０日（日）～１５日（金）
大韓民国国立公園管理公団北漢山生態探訪研修院（2014年改名）訪問
北漢山生態探訪研修院および雪岳山方面を視察
場　所：大韓民国国立公園管理公団北漢山生態探訪研修院
参加者：団長　髙谷吉也（日本スポーツ振興センター理事）
　　宮﨑　豊（国立登山研修所長）
　　山本一登（国立登山研修所専門職）
　　長岡健一（専門調査委員・主任講師）
　　杉坂　勉（副主任講師）
　　柳澤義光（研修会講師・富山県警察山岳警備隊）
　　以上６名の交流団が訪韓

平成２７年９月２９日（水）～１０月４日（日）
大韓民国国立公園管理公団北漢山生態探訪研修院登山学校関係者の講師研修会（救助技術Ⅰ）に参加受入れ
※この訪問は交流事業における定例の招聘ではなく、韓国側の救助技術研修の強い要望を受け入れたもの。
場　所：国立登山研修所
参加者：団長　朴容煥（北漢山生態探訪研修院登山学校長）
　　孫京完（北漢山生態探訪研修院登山学校係長）
　　ソン　ヒョンイル（雪岳山国立公園事務所）
　　キム　ジョンホ（北漢山生態探訪研修院登山学校主任）
　　金在浩（北漢山生態探訪研修院登山学校災難救助隊）
　　李廷渉（多島海海上国立公園事務所：通訳）

平成２８年９月２７日（火）～１０月２日（日）
大韓民国国立公園管理公団北漢山生態探訪研修院招聘
講師研修会（救助技術Ⅰ）に参加
場　所：国立登山研修所
参加者：団長　朴容煥（国立公園登山学校長）
　　金基昌（国立公園管理公園安全防災所）
　　兪尚氾（国立公園登山学校）
　　李廷渉（多島海海上国立公園：通訳）
　　鄭俊教（雪岳山国立公園）
　　洪思賢（北漢山国立公園道峰事務所）

通　訳：　　宋　勇（高志山の会）